

メディアミックス効果により 3カ月で地域最大規模に躍進

マッハFC

マッハFCは03年12月26日、福岡県北九州市に「マッハステーション小倉東インター店」をオープン。竜の子プロダクション（タツノコプロ）のアニメーション「マッハGoGoGo」をメインキャラクターとした「マッハ車検」を開始している。同店は新規オープンながらも3カ月で車検台数400台/月を達成し、併設するセルフスタンドの給油量も地域でトップクラスに成長している。

また、同時に全国へのフラ

ンチャイズ展開も開始。広島県広島市にフランチャイズ第1号店となる「五日市石内バイパス」をオープンしている。

タツノコプロ創立40周年記念プロジェクトと連動！

「マッハGoGoGo」は67年4月2日～68年3月31日まで、フジテレビ系で公開されたスーパーマシン「マッハ号」とそれを操るドライバー三船剛を主人公としたレースアニメーションである。「マッハ車検」

は、単にこのアニメーションのイメージを車検に組み合わせたというだけではなく、タツノコプロの「マッハプロジェクト」とリンクした本格的なコラボレーション企画の一環として開始されたのである。

「マッハプロジェクト」はタツノコプロの創業40周年を記念した事業の一環として推進されており、アニメーションの製作からゲームやキャラクターグッズの販売などを始めとした様々な企画が同時進行で展開されているアニ



サーキットを疾走する「新生マッハ号GT」として制作された「バンプレストR-1マッハ号GT」と、ドライバーとしてGT選手権に参戦している玉中社長。

認知度の高いテクノコプロの「マッハGoGoGo」を採用することで、幅広いユーザーにアピール。

メ、ファッションと異分野、異業者をコラボレートさせたメディアミックス事業である。その中で、実際に「マッハ号」をサーキットで走らせたいという夢を実現するため、国内でのレース活動と車両販売を行っているピーワンがVEMAC RD320Rをベースに「新生マッハ号GT」として「バンプレスト B-1 マッハ号GT」を製作し、03年シーズン

から全日本GT選手権のGT300クラスに参戦している。この実際にサーキットを走る「マッハ号」とリンクする形で開始された同プロジェクトの「クルマ部門」として位置付けられているのが、今回紹介する「マッハ車検」であり、そのフランチャイズ展開に向けて新たに設立されたのがマッハFCである。

「マッハ車検」の説明をする

前に、簡単にGT選手権に参戦する「バンプレスト B-1 マッハ号GT」のチーム体制を紹介しよう。チーム監督には、女優としてだけでなくレーサーとしても有名な三原じゅん子さんを起用。ドライバーはピーワン/マッハFCの玉中哲二社長と、アニメーションの主人公の名前を採用した三船剛さんの2名体制である。03年シーズンは、クラス2位で表彰台にも上がるなどの好成績を残して年間ランキングは9位となり、4月4日に岡山県のTTサーキットで開催された04年の開幕第1戦ではクラス5位入賞を果たしている。

サービスはイメージ先行ではなく「質」を重視！

「マッハ車検」は立会方式による45分車検で、料金は1万3000円～となっている。し



小倉東インター店はセルフスタンドを併設した「マッハステーション」で、オープンからわずか3か月で地域トップクラスの給油販売量を達成している。



作業状況はショールームに設置されたパソコンのモニターで確認できる。



整備スタッフはヘッドセットを装着。

かし、単に時間の早さや低料金を売るのでなく、レースにおけるピットワークのような質の高いサービスでユーザーの満足度を高めてリピート率の向上を図ることを重視。次回車検のリピート率を60%以上に設定し、ユーザーの視点にたったきめ細かいサービスを行っている。

具体的には、検査員と整備スタッフ、フロントの担当者がコンビを組んで作業を実施。フロント担当者はユーザーと1対1で、受入れから終了までの工程を丁寧に説明。法定の56項目に独自の44項目を加えた100項目点検の内

容を解説し、終了後の結果報告もしっかりと行うことでユーザーに「しっかりやってもらった」というイメージを持ってもらえるように心掛けているという。また、作業工程はガラス越しではなく、ショールーム内に設置されたパソコン端末で自由に見れるようになっている。しかも、整備スタッフは全員がマイクとスピーカーを組み合わせたヘッドセットを装着しており、通常なら整備スタッフしか見ることができない細かい部分までパソコンの画面でビジュアル的に見ることができる。

このシステムは、フランチャイズ第1号店としてオープンしている広島の「五日市石内バイパス」で以前から導入されていた方式で、「マッハ車検」のサービス開始当初から既存の車検サービスとの差

別化を図るための重要なポイントの1つとなっている。

店舗スタイルは4タイプで全国300店体制を目指す！

「マッハ車検」の店舗は、マッハ号のMマークのカラーである赤とチェッカーフラッグが組み合わされ、初めて見た人にも強烈なインパクトを与える店舗外観となっている。

1号店の小倉東インター店はセルフサービススタンドと店舗(デジタルオートステーション)を併設したスタンド一体型だが、フランチャイズ形態はマッハステーションと呼ばれる同タイプ以外にも、加盟する業者の業種や規模に合わせたMⅠ(マッハワン)ショップからMⅢ(マッハスリー)ショップまでの3タイプを加えた計4パターンが用意されている。しかも、固定のフランチャイズ料は設定せず、加盟する業者の規模や実績に応じた変動制とすることで、気軽に加盟できるように



小倉東インター店の店舗(デジタルオートステーション)。

している。

マッハステーションは、海外収入確保のため車検など新規事業への進出意欲が旺盛なガソリンスタンドの加盟を想定したフランチャイズ形態である。

MⅠショップとMⅡショップは指定工場を対象としている。MⅠショップはロードサイドの好立地のデジタルオートステーションと指定工場を新設。MⅡショップはカ

メラでユーザーに説明できるという特長を生かし、ロードサイドの好立地に新設したデジタルオートステーションと既存の指定工場を組み合わせた形態となっている。

MⅢショップは、指定工場へのステップアップを前提とした認証工場を対象とした形態である。

さらに、「マッハ車検」では車検のリピーター率を高めると



ポスターには「マッハ車検」のロゴと「1地区1店舗限定加盟店募集！」の文字が目を引く。また、「早さ」「信頼」「安心」という3つのポイントが強調されている。背景にはチェックered patternと車のイメージが描かれている。

「マッハ車検」の店舗スタイルは加盟する業者の業種や規模に合わせて4タイプが用意されている。



このメニュー表には「1地区1店舗限定」という条件が示されている。また、「マッハ車検」のサービスとして「カー用品」や「カー用品+ツアライ」などが紹介されている。右側には車のイラストが描かれている。

同時に、クルマの買い替え需要や用品販売需要の取込みも図っている。ガリバーのオンラインシステムにより店内のパソコン端末で中古車の検索やカー用品の選択ができるようになってきているほか、パソコンでカー用品を選べるカーレックスの「カープランナー」も設置されている。

「マッハ車検」はまだ店舗数が少ないため、チェーンと

してのPRは行われていない。しかし、メディアミックスの効果により様々な分野で直接、あるいは間接的に取り上げられ、認知度が向上している。この結果、1号店の小倉東インター店では前述のように入庫台数が順調に増えており、2つの検査ラインと併設する5ストールのピットをフル活用することで2年後には車検台数1000台/月、一般整備400台以上/月を目指している。

「マッハ車検」に対する認知度が高まったことで、加盟に関する問い合わせも増えており、既に数店舗が出店に向けた準備を進めている。マッハFCでは、1地区1店舗限定で加盟店を年内に約100店舗まで増やし、5年後には全国300店舗体制とする計画である。

【北九州市小倉南区長野1-5-24】



店内のパソコン端末で中古車の検索やカー用品の選択ができる。